

スペースジャパンレビュー編集委員巻頭言

2009年

明けましておめでとうございます。本年は宇宙分野においては昨年の宇宙基本法の成立・施行により従来とは大きく変わった発展する年になるのではないかと期待しております。特に、安全保障分野においては、世界的に衛星通信はその重要性が益々増大していることから今後の発展を注視する必要があると考えられます。衛星通信を扱う本 AIAA-JFSC は発足して以来今年は10年目を迎えようとしております。これも皆様のご協力の賜物と感謝致しております。引き続きご支援をよろしくお願い致します。

編集顧問 飯田尚志

本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年宇宙基本法が成立して、我が国も漸く一般先進国なみの宇宙利用政策を実施することが可能となりました。当然のことに実現するのにほぼ 40 年もかかってしまったわけで、国の安全保障上必要な宇宙利用の技術面、運用面で、現在の大きな遅れを何とか世界トップレベルに早く近づけられるよう、国内関係者の英知を結集して一丸となった努力が望まれます。毎年のことながら、本誌を読者各位のお役に立てる、興味の持てる内容に高める努力をささやかでも続けたいと念じております。

副編集長 植田剛夫

新年明けましておめでとうございます。日頃 SJR のご愛読ありがとうございます。

昨年、日本では国会審議の結果、宇宙基本法が成立、施行され宇宙政策の転換に期待が膨らみました。然し年後半米国発の金融恐慌に見舞われ世界的レベルでの金融不安と経済的混乱状態に入ってしまった。一方地球温暖化による環境破壊・災害発生が危惧され、自然環境の監視・悪化の防止の必要性が益々問われています。

米国大統領選挙も終わりオバマ新大統領の誕生となり、国家的国民融和と新しい責任、世界レベルでの融和と新しい責任分担がテーマになりつつあります、そんな中 NASA 新長官がどんな宇宙政策を打ち出すか興味深深です。宇宙開発でも新興国を含めた世界レベルでの融和と新しい責任分担が生まれるでしょうか。

昨年は WINDS が無事打ち上げられ軌道上性能試験も終り利用実験に入っています、新たな高度衛星通信技術の開発が推進されています、今年1月23日には7個の小型衛星が国民参加のもと実行され軌道にのりました、DRTS を含めた衛星通信技術の貢献が多いに期待されることは言を待ちません、今年宇宙開発への国民の関心が益々深まり国民の宇宙への関心を沸き立たせる好機になると期待しています。

今年も SJR をご愛顧頂きますようお願い致します。

編集特別顧問:北爪 進

昨年の 5 月に本フォーラムの事務局長を仰せつかった福地です。同時に、「スペース・ジャパン・レビュー」誌の編集委員として編集委員会に参加させていただいています。非常にホットな衛星通信及び周辺宇宙開発状況を毎回の編集委員会で情報交換できるのは、大学で学生に宇宙通信・計測関連の講義をしている身にとっては、講義への付加価値が増大すると感謝しています。ただ、毎回の編集委員会があつという間に来てしまい、宿題をあわてて片付ける(100%ではないが)学生の気分も味合わせていただいています。ともあれ、飯田編集顧問の強力なリーダーシップのもとで内容の充実に努めていますので、皆様、是非ご一読と周辺の方への宣伝をよろしく願いいたします。

編集委員/事務局長 福地 一

あけましておめでとうございます。昨年宇宙基本法が成立し、今後の宇宙政策、宇宙産業にどのような変化が現れてくるのか、広くアンテナを張り巡らせて新しい時代の変容に関する情報提供ができればと思います。最近では、インマルサットが今年打ち上げた第四世代衛星により地球全体を覆う新たな衛星通信網が完成させ、小型アンテナを利用したインマルサット BGAN サービスも加速されつつあるなど衛星通信産業にも明るいニュースが増えつつあります。イリジウムの復活やタイコムの本国内における衛星ブロードバンドサービス開始など衛星通信産業にとって新しい展開が起こることを期待しています。

今年も Space Japan Review 誌を引き続きご支援お願いいたします。

編集委員長 若菜弘充